

令和4年度中河内病院連絡会結果（概要）

開催日時：令和4年12月19日 場所：若江岩田駅前市民プラザ（くすのきプラザ）

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

【全体】

○圏域内での医療の完結を目指す必要があり、そのためには、回復期病床だけでなく、コロナによって特に急性期病床が必要との意見が多くなっているが、ポストコロナを見据え今後どのような機能が必要かを検討していくことが必要。

【病床機能の報告基準について】

○府報告基準については、医師数と看護師数で基準を定めるのは困難であり、診療報酬の考え方を取り入れるとよいのではないかと。

【回復期病床の転換にかかる課題】

○地域包括ケア病棟は、診療報酬の算定要件が厳しい。
○急性期と回復期の両方の機能を兼ね備えた病棟もあり、病床機能の考え方については、柔軟な考え方が必要ではないかと。

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1）公立・公的病院

●市立東大阪医療センター

高度急性期病床への転換については昨年度継続協議となっており、事務局から、高度急性期病床への具体的な転換内容について確認。

（病院の回答）循環器・消化器・呼吸器といった外科系の病棟を高度急性期にする。

実際行っている医療は高度急性期にあてはまっていると思うので、今後は看護師配置を整備して十分な体制を確保していく。

（2）その他、民間病院等

●医療法人徳洲会 全南病院

（病院への意見）医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院との再編統合によって、回復期病床が高度急性期と急性期に転換する。回復期の受け入れはどうか。

（病院の回答）府報告基準上「回復期」となってるが、現実には急性期の患者を受け入れている。